

シュガー&スパイス 風味絶佳

2006(平成18)年8月30日鑑賞(東宝試写室)



監督＝中江功／原作＝山田詠美『風味絶佳』(文藝春秋刊)／出演＝柳楽優弥／沢尻エリカ／高岡蒼甫(特別出演)／木村了／濱田岳／岩佐真悠子／夏木マリ／チェン・ポーリン(東宝配給／2006年日本映画／125分)

……高校卒業後、「とりあえず」ガソリンスタンドで働く主人公と、カレと別れてそこにバイトで入ってきた女子大生との恋は順調に育つかに見えたが……。今ドキ「優しい男」が大はやりだが、それは時として「便利な男」と同義語では……。『風味絶佳』とは、日本人に100年以上愛されている森永ミルクキャラメルに印刷されている文字だが、さてその意味は……。また、「シュガー&スパイス」とは、「男は優しさだけではダメ。タフでなければ……」と同義語……？

風味絶佳とは……？

バスの座席でうとうとしていた山下志郎(柳楽優弥)のポケットから食べかけの森永のミルクキャラメルが落ちたが、志郎はそれに気づかない。バスの中は後ろの座席に赤いスカートをはいた女性が一人いるだけ。映画の冒頭はこんなシーンだが、さてこれは一体何を意味しているの……。これは二つの意味を持つことがラストになって明らかになるが、その一つだけネタバレらしを……。

それは私も今まで全く気づかなかったことだが、森永のミルクキャラメルには「滋養豊富」「風味絶佳」という四文字熟語が印刷されており、この「風味絶佳」がこの映画の、そして山田詠美の原作のタイトルになっているというわけだ。この森永のミルクキャラメルをタバコと併用して(?)いつも食べているのは志郎の祖母のグランマ(夏木マリ)。彼女が失恋の痛手のために落ち込んでいる志郎に対してこれを差し出ししながら、言うセリフがにくい。それが「これでも舐めて

頭働かせな。脳みその栄養は糖分でしかとれないんだからね！」。

このキャラメルが日本ではじめて作られたのは1899年らしいが、100年以上経った今、こんな形で主役扱いしてもらえれば、森永のミルクキャラメルもさぞ本望だろう。そして、もう一つの意味は映画を観てのお楽しみに……？

何とも今風の主人公だが……？

この映画はカンヌ国際映画祭で最優秀男優賞を最年少で受賞した柳楽優弥のナレーションが多用されているが、それを聞いていると、高校3年生の志郎の考え方ははっきり言ってかなり幼稚……。そもそも、特に大学に行く意味がないから、とりあえずガソリンスタンドで働くという発想自体が、志郎の父親と同様私も全然納得できない。別に「ガソリンスタンドで働くことが男一生の仕事か！」と一喝する気はないが、今どきの若者たちのこの「とりあえず」というのが私は嫌い……。

もっとも、70歳を超えて今なお若い恋人＝必需品マイク（チェン・ボーリン）を傍に置き、何事にも信念を持って生きている祖母のグランマは、「ガスステーション、いいじゃないの！」と志郎の選択を尊重したが、それも「3年経ってモノにならなければ辞めて、再度受験勉強でもしな！」という留保つき……。自動車関係の仕事が好きというだけで、高卒後安月給（？）のガソリンスタンドでとりあえず働いて、ホントに将来の展望が見えてくるの……？

長期的な展望がないままその場しのぎの生き方をしているのは、志郎の友人の尚樹（濱田岳）も同じ。尚樹は恋人のヨウコ（岩佐真悠子）と一緒に暮らせるだけで幸せなようだが、何とんでもその考え方は幼稚。その点もう一人の友人マッキー（木村了）はしっかり者で、高校卒業後名古屋の大学に進むという自分の方針をしっかりと……。この映画を観ていると、このような男としての考え方や生き方の幼稚さや曖昧さが恋の勝負においても、勝ち組と負け組に分けているように思えるのだが……。

こんなかわいい子がガソリンスタンドでバイト……？

志郎が勤め始めたガソリンスタンドに、ある日バイトとして入ってきたのがか

かわいい女の子の渡辺乃里子（沢尻エリカ）。ちゃんとした大学生だが、「どこでもいいからバイトをしてみようと思って本をめくったら、ここになった」というから、実はこれもかなりいい加減……？ 顔だけではなく、着ているモノを見てもかなりお嬢さん風で、ホントにこんなかわいい子がガソリンスタンドでバイトするの、とってしまうが、どうもバイトの動機はケンカ別れになってしまった元カレを早く忘れるためのよう……？

男ばかりの職場にこんなかわいい子が入ってくれば男たちが意識し始めるのは当然だが、それ以上に乃里子の方から、いつも優しく接してくれる志郎に興味を持ち始めたよう。こうなれば、コトは万事順調に進むのが当然。2人は周りのみんなが公然と認める恋人同士のようになりはじめたが……。

優しさだけでは……？

志郎はグランマから徹底したジェントルマン精神を叩き込まれていたから、女性に対する優しさだけ（？）は超一流……？ そして乃里子はどうもその志郎の優しさに惹かれたよう……。乃里子の元カレの矢野（高岡蒼甫）は遊んでいるような面もあるがちゃんと将来のことを考えている医大生。また余計なことだが車も持っている……？ そんな矢野をみていると、かなり強引でしっかり者だという雰囲気……？

最初のケンカしているシーンだけではなぜ2人が別れることになったのかは示されないが、どうもそれは彼が別の女性に走ったためらしい……？ したがってそんな元カレと別れたばかりの乃里子にとって志郎が示す無条件の優しさはひどく心地良いものだったことはまちがいない。そして、乃里子はそんな志郎の優しさの中に包まれていれば幸せになれると思っていたし、志郎もそれを信じていたが……？

恋模様は急転換……

映画の後半、乃里子と志郎が仲良く手をつないで歩いている姿を矢野が目撃したところから2人の恋愛模様は急転換！ ガソリンスタンドで乃里子の住所を聞き、一人乃里子の家を訪れた矢野のセリフは、「お前は俺でなきヤダメなんだ」

という何とも厚かましいもの……。そもそも、「今さらなぜ訪ねてきたの！」とはねつけて家の中に入れなければいいのに、「鍵を開けろよ」とくり返す彼の言葉に従って鍵を開けた時点で、既に乃里子の負け……。そしてダメ押しは、「俺もお前でなきやダメなんだ」「約束する、もう2度とお前を裏切らない」というセリフ。女心ってこんなセリフで簡単にグラつくもの……？

シュガー&スパイスとは……？

「19歳になったら一緒に住もう」と志郎に約束したのは乃里子の方から。また「クリスマスパーティーには必ず行く」とグランマに約束したのも乃里子の方から。ところが現実……。 「忘れよう、忘れようと思っている」ということは、つまり「忘れていない」ということだから、そこに元カレが再度登場すると女心がたちまちグラグラとなるのは必然……。するとそんな約束って一体ナニ……？

男の私は、乃里子がガソリンスタンドを辞めるとあいさつにやって来た際、志郎のロッカーに入れていた手紙を読んで、無性にハラが立ってきた。その手紙の文脈は「あなたの優しさをありがとう」「感謝している」「さようなら」ということだから、結局志郎は元カレと別れていた間だけの代用品……？

そこではじめて、この映画のタイトルである「シュガー&スパイス」の意味が明確に……。つまり、男は優しさだけではダメで、タフでなければならぬということ……。さあ、今後志郎はこの失恋の痛手を乗り越えて、シュガー&スパイスのテクニックを磨くことができるだろうか……。そこで映画の冒頭シーンを思い返していただければ、きっと志郎も大丈夫……？

2006（平成18）年8月31日記